

SEPTEMBER. 9
2026

No.624

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

おきぎん 調査月報

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx



くがにくとぅば【黄金言葉】 vol.263

変化を恐れず、挑戦を重ね、未来を拓く

株式会社 ロワジュール・ホテルズ沖縄

総支配人 武田 寛枝

地域リレーションシップ情報 260

沖縄総合事務局経済産業部の取り組みについて

地域課題解決型スタートアップ支援事業

【官民共創】自治体発の地域課題ピッチイベント

おきぎんマーケティングレポート

おきぎん賃料動向ネットワーク調査
(2025年)

1 くがにくとぅば[黄金言葉] vol.263

変化を恐れず、挑戦を重ね、未来を拓く

株式会社 ロワジール・ホテルズ沖縄 総支配人 武田 寛枝

5 地域リレーションシップ情報 260

沖縄総合事務局経済産業部の取り組みについて**地域課題解決型スタートアップ支援事業【官民共創】自治体発の地域課題ピッチイベント**

6 けいざい風水

8 おきぎんマーケティングレポート

おきぎん賃料動向ネットワーク調査(2025年)

18 おきぎんカトレアクラブ通信

20 県内景況・確報

2026年4－6月期の県内景況

27 掲載内容見直しのお知らせ

「最近の国内景気動向」および「沖縄マーケティング情報」一部掲載終了について

28 国内景気動向

30 沖縄マーケティング情報

①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数

②世界の中の沖縄(年次)

③グラフでみる沖縄経済

④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)



サンセットSUPクルージング

変化を恐れず、挑戦を重ね、未来を拓く



株式会社 ロワジール・ホテルズ沖縄
総支配人 武田 寛枝



那覇市に根ざし、長年にわたり地域や観光客から親しまれてきた「ロワジールホテル&スパタワー那覇」。その総支配人を務めているのが武田寛枝氏です。今回は、空港勤務や営業職、社長職など多彩なご経歴を経て、2020年に総支配人に就任された武田氏に、これまでの歩みや仕事への姿勢、今後の展望などについてお話を伺いました。

空港勤務から始まった社会人としての歩み

私は県内の高校を卒業した後、東京の専門学校に進学しました。20歳で沖縄に戻り、株式会社エアー沖縄（現・ANA沖縄空港株式会社）に入社し、27歳までの約7年間、空港の旅客部門でグランドスタッフとして勤務しました。

当時は非常に忙しい職場でしたが、そこで培った接客に対する考え方は、現在の仕事の土台となっています。特に印象に残っているのが「セカンドチョイス」という考え方です。お客様の希望に答えられない場合でも、単にできませんと断るのではなく、別の選択肢を提案することを教えられました。現在でも、何か難しい相談を受けた際には、できない理由を並べるのではなく、代わりに何ができるかを考えるようにしています。また、日々の仕事でも自分なりに目標を決め、積極的に行動していました。この姿勢が、その後の営業活動にもつながっていると思います。



▲エアー沖縄（現・ANA沖縄空港）勤務時代

専業主婦からリクルート入社へ

27歳で出産を機に退職し、夫の転勤に伴って鹿児島へ移りました。そこから約3年間は専業主婦として過ごし、2人の子どもを出産しました。下の子が1歳になった頃、もう一度働きたいと考えるようになりました。家計のこともありましたが、それ以上に、社会との接点がなくなることへの不安がありました。当時は、自分に何ができるのか、どのような仕事に向いているのかも分かりませんでした。そのような時、新聞の折り込みチラシで見つけたのが、株式会社リクルート（現・株式会社リクルートホールディングス）が発行する旅行情報誌『じゃらん』に関する仕事でした。鹿児島県内の宿泊施設の広告営業を担当し、約1年間勤務しました。

その後、夫の転勤に伴い東京へ移ることになりました。ようやく仕事に慣れてきた頃ではありましたが、リクルートから「ちょうど『じゃらんnet（宿泊予約サイト）』を拡大するので、東京で働いてみないか」と声を掛けていただき、契約社員として入社しました。

営業の仕事に就くのは初めてでした。30歳を過ぎ、子どももいた私は、若い社員に年齢や学歴ではかなわないと感じ、「人の倍働こう」と決めました。会社から1日5件の訪問を求められれば、私は10件訪問しました。また、既存の取引先への売上を増やすことが私の主な役割で

したが、次々と新しいホテルが開業する東京で、新規開拓をしないのはもったいないと考え、自ら新規営業にも取り組みました。行動量を増やすと、成果も後から付いてきました。社内表彰を受ける機会も増え、次第に営業という仕事が自分の得意分野であると思えるようになりました。

契約社員として3年間勤務した後、正社員となり、営業リーダーとして首都圏・箱根・熱海・沖縄エリアの営業を担当しました。私には、採用したことを後悔させたくないという強い気持ちがありました。現在も、仕事に対する基本的な姿勢は変わっていません。私のモットーの一つは、「仕事に穴を開けない」ということです。任された仕事には責任を持ち、最後までやり切ることを大切にしています。



▲リクルート勤務時代

大きな転機を経て沖縄へ

私が40歳になったばかりの頃、夫が突然この世を去りました。当時、子どもたちはまだ小学生でした。ともに暮らしていた家族が何の前触れもなく、突然いなくなるという経験は、言葉では表せないほどつらいものでした。そのような中、会社は私と子どもたちのことを思いやり、出身地である沖縄で生活できるよう配慮してくれました。夫が亡くなってから約3カ月後、株式会社リクルートライフスタイル沖縄の社長として沖縄へ赴任し、『じゃらん』や『ホットペッパー』などのWebサービスを通じて、県内のホテル・飲食店・サロンなどの集客支援に取り組みしました。沖縄で4年間社長を務めた後、東京へ戻り、キャッシュレス決済に関する新規事業を担当しました。

社長として組織を率いていた立場から、再び

自ら営業する立場へ変わりましたが、異なる部署でも成果を評価していただき、営業が自分の強みであることを改めて実感しました。その後、高齢になった母のこともあり、沖縄へ戻ることを決め、18年間勤めたリクルートを退職しました。

コロナ禍での総支配人就任

ロワジールホテル&スパタワー那覇の総支配人に就任したのは、2020年10月です。きっかけは、当ホテルの運営会社であるソラーレホテルズアンドリゾート株式会社の井上社長からお声掛けいただいたことでした。当初はホテル業界への転身に戸惑いもありましたが、リクルート時代の上司や先輩から「総支配人は貴重な挑戦の機会だ」と後押しを受け、就任を決意しました。就任当時は、新型コロナウイルス感染症の影響により、沖縄観光が大きな打撃を受けていた時期でした。Go Toトラベル事業が始まれば、状況はすぐに改善するのではないかと期待していましたが、現実にはそれほど簡単ではありませんでした。ホテルの客室稼働率が5%程度まで落ち込み、朝食を利用するお客様が数人しかいない日もありました。従業員の間には、感染症への不安だけでなく、雇用やホテルの将来に対する不安も広がっていました。

そのような中、最初に取り組んだのが、従業員の雇用を守ることです。幸い私にはホテル業界以外の、他の業界とのつながりがありました。コロナ禍でも人手が不足している企業を探し、人事部長と協力しながら、従業員の出向先を確保しました。ホテルの仕事が少ない期間は、別の会社で働いてもらうことで、雇用を維持することができました。その後、観光需要が回復すると、今度は深刻な人手不足に直面しました。コロナ禍で従業員を手放していたら、ホテルの運営を立て直すことは、さらに難しくなっていたと思います。



経験豊富な人材の活用

人手不足への対応では、若手人材だけにこだわらず、他社で60歳前後に定年や再雇用を迎えた、経験豊富な人材を積極的に採用するようになりました。60歳で入社しても、70歳まで働くとするれば10年間あります。大企業などで長年培った専門性やマネジメント経験は、ホテルでも大きな力になります。現在、ロワジールホテルでは、全従業員のうち半数以上を50歳以上が占めており、シニア層が重要な役割を担っています。年齢に関係なく、能力や経験を生かし、安心して働き続けられる会社になりたいと考えています。



シティリゾートホテルとしての新たな姿へ

ロワジールホテル&スパタワー那覇は、長い歴史を持つフルサービスホテルです。一方で、施設の老朽化など、今後に向けて改善しなければならない点もあります。今後は数年をかけて大規模なリニューアルを行い、シティホテルとしての利便性と、リゾートホテルとしての魅力を併せ持つホテルへと進化させたいと考えています。まずはプールを改修し、よりリゾート感のある空間にしていく予定です。その後、客室やレストラン、宴会場なども順次改修していき

ます。当ホテルには、価格帯や特徴の異なる複数の客室があります。比較的手頃な価格の客室から、スパタワーのような高付加価値の客室まであり、学生や団体旅行、ファミリー、インバウンド、富裕層など、多様なお客様を受け入れることができます。すべてのお客様を一つの層として捉えるのではなく、客室や施設ごとにターゲットを明確にし、それぞれに合った価値を提供していきたいと思っています。



▲シティホテルの利便性とリゾートの魅力を兼ね備える
ロワジールホテル&スパタワー那覇

与えられた任務に対してベストを尽くす

私が大切にしているのは、与えられた任務に対してベストを尽くすことです。もちろん、仕事を振り返り、もう少しよい方法があったのではないかと反省することはあります。しかし、過去の失敗にとらわれて落ち込み続けても、前へは進めません。反省はしますが、落ち込みません。常に前を向いて進むことを心掛けています。

今後は、ロワジールホテル那覇のリニューアルを着実に進め、長い歴史と新しい魅力を兼ね備えたホテルへと生まれ変わらせたいと思っています。これからも変化を恐れず、ホテルで働く従業員、お客様、そして沖縄観光の未来にとって何が必要なのかを考えながら、目の前の仕事にベストを尽くしていきます。





花風
Ryukyu Dining
HANAFU
琉球ダイニング はなふう

本格中華と沖縄の恵みが織りなす
ここでしか味わえない、特別なひとときを。

琉球ダイニング 花風 11:30~14:30 (L.O. 14:00)

※食材の仕入れ状況など、予告なく内容に変更がある場合がございます。
※料金には、消費税・サービス料が含まれております。

2026年9月1日(火)~10月31日(土) 沖縄 地産知食シリーズ
金アグーと沖縄黒糖を味わう中華ランチコース ¥3,500
県産黒糖仕立ての“金アグー”黒チャーシューなど旬の5種前菜をはじめ
大海老のピリ辛炒めや、県産黒糖でじっくり仕込んだ金アグーばら肉の
とろとろ煮込みなど、沖縄の豊かな味覚を集めました。
シェフが丁寧に仕立てるこだわりの味覚をぜひお楽しみください。



ロフジールホテル&スパタワー 那覇
〒900-0036 沖縄県那覇市西3-2-1
TEL.098-868-2222



lslain-naha.com



Instagram



JFS-5075200138-00

風水 けいざい



食事補助の法改正

実効性ある「賃上げ」に

沖縄銀行 法人事業部営業部エリア分室長
高良 亮

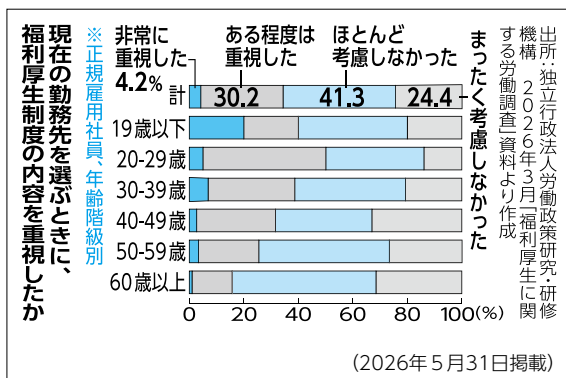
今年4月から、企業の福利厚生である「食事補助」に関する税制が、42年ぶりに大きく見直されました。これまで1人当たり月額3500円とされていた非課税限度額が月額7500円へ引き上げられました。

本制度の活用で、企業側は社会保険料等を増やすことなく従業員の実質的な生活支援が可能となります。一方、従業員側も課税対象外で補助を受けられるため、実質的な手取り増加につながります。いわば「第3の賃上げ」といえる企業・従業員双方にとって実用性の高い制度です。

制度活用の条件は (1) 従業員が食事代の50%以上を負担すること (2) 会社負担分が月7500円(税抜)以内であること (3) 原則、現物支給であること—の3点です。現物支給は社員食堂がなくても、弁当手配や食事チケット、プリペイドカード型サービスなどを利用することで、導入を検討することが可能です。

2026年3月に実施された調査結果では、求職時に福利厚手を重視したと回答した人は20歳代で50.1%にのぼっており、採用力向上の観点からも有効な施策といえます。食事補助制度改正は、企業の人材戦略と従業員の生活支援を同時に実現できる実効性の高い施策といえます。

賃上げが難しい環境下でも、税制優遇を生かしながら従業員満足度を高め、採用力・定着力の向上につなげられます。この機会に「選ばれる企業」づくりの一環として、食事補助制度の活用を前向きに検討してみてはいかがでしょうか。



県内の中古マンション価格動向

インフレ以前から上昇傾向

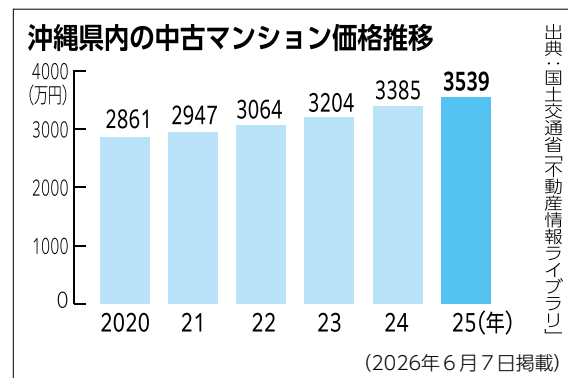
おきぎん経済研究所 研究員
小嶺 貴史

近年、各地でマンションの新築工事の様子や分譲販売の広告を目にする機会が増えているのではないのでしょうか。以前はマンションといえば那覇近辺というイメージでしたが、近年では中北部や離島でも分譲マンションが普及しています。新築戸数の推移からも需要の底堅さが見られます。一方で、高価格帯の物件も増加しており、新築では希望する条件の物件に手が届きにくいと感じる方も少なくないことが考えられます。

こうした状況から、中古マンションの購入を検討する方も多いと思われますが、中古マンション市場はどのように推移しているのでしょうか。図表は、最近の中古マンションの成約価格の推移を示したものです。年ごとにサンプル数や地域、間取り、築年数などの条件が異なる点に留意が必要ですが、上昇トレンドで推移しており、昨今のインフレ以前から価格が上がり、コロナ禍でも価格が上昇し続けている点が特徴的です。

購入者の立場で見ると、2020年から25年にかけて価格はおよそ24%上昇した一方で、毎月勤労統計に基づく沖縄県民の平均給与(常用労働者・規模5人以上の事業所)は20年の25万6585円から25年の26万6232円へと、4%程度の上昇にとどまっていることから負担感は一層高まっていると推察されます。

さまざまな生活コストが上昇しており、マンション購入は「人生最大の買い物」となる方も多いと思います。こうした状況を踏まえ、より堅実なマネープラン、ライフプランの構築が求められています。





地域で支える お金の安心

金融機関と築くゆいまーる

沖縄銀行 大謝名支店長
米須 さおり

近年、予期せぬ自然災害が増加しています。こうした状況で、私たちが真っ先に取り組むべきは「いざというときに生活を立て直す力」を備えておくことです。食料の備えだけでは長引く被災生活を支えることはできません。

現在、「万が一の時のために」と多くの現金を自宅に保管しているケースが見受けられます。しかし「手元にあるから安心」という考えは一見安全そうに思えますが、実は見落としがちな点です。特に浸水や建物倒壊の恐れがある場所で現金を保管することは、流失や汚損のリスクが非常に高いといえます。さらに、空き巣被害や高齢者を狙った特殊詐欺の標的になるという重大なリスクもはらんでいます。

災害や犯罪被害が発生した場合、突然お金を動かせなくなるリスクは、全世代に共通する切実な問題です。このリスクを防ぐ防波堤となるのが、地域金融インフラの活用です。例えば、金融機関が提供する「代理人用キャッシュカード」などは、世帯主が不在や負傷といった緊急時でも、家族がATMを利用し生活費を確保できます。また、将来の判断能力の低下や詐欺被害防止に備えた「家族信託サポートサービス」などの資産管理支援は、大切な資産の凍結や不当な流出を防ぐ強力な手段となります。

地域の金融機関は災害と犯罪から家族の暮らしを守る「現代のゆいまーる（助け合い）」の役割を担っています。大切な家族を守るために、身近な金融機関でこれからの「備え」を相談してみたいかがでしょうか。

暮らしを守る「資産の防衛ライン」

備えのフェーズ	金融機関の提供サービス	災害・防犯リスクへの対策
【直後】緊急資金	代理人用キャッシュカードなど	急な避難や緊急時、家族が生活費を引き出せる体制を確保
【中期】生活再建	口座管理アプリ	被災や避難先での通帳紛失時でも、スマホ口座状況を確認・利用可能
【長期】資産防衛	家族信託等の資産管理、スキームの支援	認知症による資産凍結や、特殊詐欺被害による資金流出リスクに備える
【根本】リスク回避	預金口座（脱・タンス預金）	災害での紙幣汚損や空き巣などの盗難リスクを低減する

(2026年6月14日掲載)



沖縄への 情報通信産業集積

生産性向上、高度人材確保

おきぎん経済研究所 研究員
上門 伸也

沖縄県では、島しょ県としての地理的制約の克服を目的に、情報通信関連産業の集積を進めています。輸送コストの高さや市場規模の制約といった不利性を背景に、物理的制約を受けにくい情報通信関連産業を成長分野として位置付け、積極的な企業誘致が進められてきました。また「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（2022年策定）」でも、情報通信関連産業はリーディング産業の一つに位置付けられ、税制優遇やインフラ整備、人材育成の施策が推進されています。

取り組みの結果、県外からの情報通信関連企業の立地が進み、22年には531社、3.1万人の雇用が創出されています。代表的なのは、うるま市の沖縄IT津梁パークなどで、これらを中核にIT関連産業が集積しています。一方で、雇用者の多くがコールセンターやBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）などの労働集約型分野に従事していることから、従業員1人当たりの付加価値は全国平均を下回る水準で、経済全体への波及効果の観点では課題も残されています。

近年は、ソフトウェア開発やコンテンツ制作といった高付加価値分野への転換が進みつつあります。今後は、デジタル化需要の拡大やアジアに近い地理的特性を生かした国際展開を取り込みながら、労働生産性の向上と高度人材確保の両立が重要になると考えられます。こうした取り組みを通じて、質的な転換を伴う産業の発展が見込まれ、地域経済の成長をけん引する分野として、その役割を高めていくことが期待されます。

